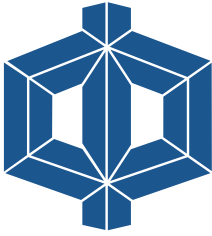


弘前市立第四中学校

創立七十周年

四中の歴史





目次

式辞	……………	校長 天坂文隆	4
祝辞	……………	弘前市長 葛西憲之	6
創立七十周年によせて	……………	生徒代表 旧生徒会長 秋谷壮生	8
創立七十周年記念式典の様子	……………		10
創立七十周年記念祝賀会の様子	……………		11
創立七十周年の歴史	……………		12
歴代卒業生の集合写真	……………		24



式辞

校長 天坂文隆

本日ここに、弘前市立第四中学校 創立七十周年の記念式典を挙行しましたところ、弘前市長様、弘前市教育委員会教育長様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りました。高いところからではありますが、厚くお礼申し上げます。

本校が産声を上げた七十年前の昭和二十二年三月三十一日、まだ校舎もなく、青森師範学校附属小学校の四教室を借用し、当初六学級でしたので、午前・午後の二部制で第四中学校は授業を開始しました。また、後に四中と統合することになる小沢中学校、青柳中学校も、昭和二十二年四月一日に小沢小学校、青柳小学校に併置する形で開始され、その年の十一月には移転統合して清水中学校が誕生いたしました。そして、その十六年後に第四中学校と清水中学校が実質統合し、現在の四中が誕生したわけです。戦後の混乱していた時代に、校舎すらないところに新たな中学校をつくるということで、教室借用、校舎新築の陳情、校地や環境の整備等を考えても、当時の市関係者、校長、教職員、保護者、地域の方々の並々ならぬ熱意と援助があつたであろうことは、容易に推察することができます。

昭和五十年には岩石園（青雲の園）が造成され、理科の地学教材、美術の写生、文化祭には茶席を設けるなど、生徒たちの学びとくつろぎの場として広く活用されました。当時のPTAが主体となつて、広く県内外の山野から岩石五十種類、山野草四十五種類以上を搬入し完成させました。これからも、子どもたちの教育に寄せる期待の大

きさをうかがい知ることができません。また、平成二十三年に現在の校舎が完成し、新校舎での教育活動を開始してから六年が経過しました。この校舎は、学年ごとに大きなホールを有し、木をふんだんに用いた四階建ての素晴らしい校舎で、関係各位の子どもたちに寄せる思いがいっぱい詰まっています。

四中は、長い歴史の中で、「人間性豊かな生徒の育成」を掲げ「文武両道」の数々の成果をあげてまいりました。これまでの諸先輩方が築き上げてきた歴史と伝統の上に現在の四中があります。今年度四中は、生徒会テーマ「無限」を掲げ、取り組んできました。生徒会活動や学校行事のあらゆる場面で、皆の力を結集し、無限の可能性と大きな感動を生み出し、その手応えを感じているとございます。七十周年の節目を迎え、よき伝統と校風を受け継ぎながら、この恵まれた環境を最大限に生かし、生徒が主体的に活動する活気溢れる学校を作っていくことが、我々職員や生徒の役割だと思っております。今日まで、第四中学校を愛し、支えていただいた地域や保護者の皆様、そして第四中学校の礎を築いてくださった歴代同窓生や教職員の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、「第四中学校で学んでよかった」、「第四中学校を母校として誇りに思う」そのような学校で有り続けるよう決意し、新たな一歩を踏み出したいと思えます。

最後に、この度の記念行事に際し、石岡実行委員長をはじめ、実行委員の皆様、PTAや同窓会の皆様にご多大なるご支援・ご尽力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、今年の夏、弘前ねぶた祭りにおいては、多くの町会から「祝・四中七十周年」をねぶたに掲げ、祝福していただきましたことに、心から感謝申し上げます、式辞といたします。

祝辞

弘前市長 葛西憲之

本日、弘前市立第四中学校が、輝かしい歴史とともに創立七十周年を迎えられ、この学舎を愛する皆様が集い、このように盛大な記念式典が行われますことは誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

昭和二十二年、日本国憲法、教育基本法が施行され、我が国が民主主義国家へと大きく踏み出した年、本校は青森師範学校附属小学校の四つの教室を借用し、六学級、生徒数三三八名の学校として創立されました。その後、清水中学校と統合し、昭和三十八年には、三十三学級、一四四二名が在籍する大規模校となりました。商業地区、農業地区、また、寺院街などを学区とし、多様な個性や才能に溢れる子どもたちが学び合う本校では、多方面において優れた足跡が残され、地域や社会を支える多くの人材を輩出しております。これもひとえに、歴代の校長先生をはじめ、教職員の方々、保護者の皆様のご尽力の賜物であり、心から敬意を表します。

市では、二十年後の将来の都市像を「子どもたちの笑顔あふれるまち弘前」として、多くの施策に取り組んでおります。中でも子どもたちの教育環境の充実には、特に力を注いできたところであります。

この節目の年に、第四中学校で学ぶ生徒の皆さん。皆さんの凛とした姿を頼もしく思います。「健康・自主・創造・誠実」の教育目標のもと、四中生らしく自由に伸び伸びと学び、未来を担う人として、更に成長することを期待しています。

結びに、本校の歴代校長先生をはじめ、教職員の方々、保護者の皆様の、これまでの御支援と御尽力に対しまして深く感謝申し上げますとともに、第四中学校が今後ますます発展されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

(山本昇 副市長 代読)

創立70周年記念



平成29年11月24日



校長 天坂文隆



副市長 山本 昇



生徒会長



校旗入場



来賓控室



職員席

創立七十周年によせて

生徒代表 旧生徒会長 秋 谷 壮 生

今日は、生徒を代表してこのお祝いの言葉を述べる大役をいただき、緊張と晴れがまじさの入り交じった気持ちでこの場に立っています。弘前市立第四中学校の創立七十周年、心よりお祝い申し上げます。

七十年という年月の重みは、中学生の僕たちには想像も及ばないものです。四中で過ごされた多くの先輩方や先生方には、出会いと別れ、努力と喜び、時には我慢や苦勞、そして数多くの栄光と賞賛に彩られた素晴らしい思い出が、たくさんあることでしょう。長い時間と多くの思いを受け継ぎ、今、この四中で学んでいることに生徒一同、誇りと喜びを感じています。

昨年の後期から僕は第六九期生徒会の会長として活動する機会に恵まれました。信頼できる仲間と、僕たちの可能性を信じて励ましてくださる先生方に恵まれて、なんとか一年間の任期を終え、先日無事に第七十期生徒会の皆さんにバトンを引き継いだばかりです。

この一年間、七十周年を迎える四中に、新たな歴史を刻もうと知恵を出し合いながら、活動してきました。特に、九月に行われた四中祭では、節目の年にふさわしい企画をいろいろ考えました。ステージを飾る壁画は、全校生徒の力を結集したモザイクアートに挑戦し、四中校舎の姿を描きました。今、体育館後方のギャラリーを飾っています。クイズラリーも「七十周年」というキーワードが答えになるように設定しました。さらに、歴代のステージ壁画を紹介し、先輩方の足跡をたどることも挑戦しました。

例年以上の盛り上がりを見せ、大成功に終わることができ、充実感と達成感を味わうことができました。記念すべき年に生徒会長でいられたことを、とても光栄に思うと同時に、深く感謝もしています。

僕はこの第四中学校が大好きです。一人一人が個性を発揮しながらも、いざというときには全員が一つになり、大きな力を生み出すことのできる、今の第四中学校を誇りに思っています。そんな大好きな四中の歴史の中の三年間に僕たちも存在できたこと、伝統を担う一員になれたこと、本当にうれいことです。七十年とひとくちに言いますが、それは一年一年の積み重ねの結果であり、数え切れない先輩方の頑張りが、伝統という見えない力となつて、後押ししてくれたのだと信じています。

中学校生活がこんなにも充実したものになったのは、これまでの先輩方の土台があつたからだと思えます。

でも、僕たちの頑張り次第ではこの学校をもっともつと良い学校にできると思うのです。僕たちには無限の可能性があります。記念すべき今日、この日をきっかけに、第四中学校をさらに飛躍させることを、全校生徒みんなで誓い合ひましょう。

三十年後、百周年を迎えたとき、それぞれの夢や志を叶え、笑顔でまた会えるように頑張つていこうではありませんか。

栄えと光と誇りを求めん

我らが母校 四中よ 永遠なれ

創立七十周年記念式典の様子



吹奏楽部による校歌伴奏



応援委員長の石戸谷くん



保護者の方々



全校生徒による応援



応援委員が全校をリード



息の合った応援委員の演舞

創立七十周年記念祝賀会の様子



石岡同窓会長の挨拶



齋藤PTA会長による乾杯



主賓テーブル



パンフレット



四中卒業メンバーによるサクソカルテット



弘前石川流やまぶき会・津軽手踊り



閉会のことば

創立七十周年の歴史

◇昭和二十年終戦

◇昭和二十二年 新制中学校令が出され、全国各地に中学校が創設された。

①昭和二十二年三月三十一日 弘前市立第四中学校創立

- ・本町一番地の青森師範学校附属小学校の四教室を借りて開校。午前・午後の二部制をとる。
- ・最初六クラスあり、四教室では足りなかったため、午前授業していたクラスは帰宅し、家で待機していたクラスが午後出てきて授業をした。
- ・附属中学校がなかったため、四中が一年間附属中学校の役目を担い、中学校の教員をめざす人の教育実習を受け入れていた。

②昭和二十三年四月

人数が増え、狭くなったので和徳中学校（現中央高校のところ）に十教室を借りて移転した。



和徳中裏の校舎

③昭和二十六年、当時の校長とPTA会長が校舎新築を市長に陳情。

・昭和二十八年一月、鉄筋コンクリート三階建ての校舎が完成し、二月に現在の場所へ移転。当時、鉄筋コンクリートの校舎は二大小と東奥義塾だけであった。四中は当時最新の校舎となり、文部省のモデルスクールになった。



学びの校舎

また、四中とは別に次のような動きもあった。

①昭和二十二年四月一日

・小沢小学校に小沢中学校を併置
・青柳小学校に青柳中学校を併置

②昭和二十二年十一月三日に、倉庫を改造した独立校舎に移転し、清水中学校が誕生。

昭和26年（1951年）頃の清水中学校



わが母校

昭和 26 年頃の授業風景

・家庭科の被服の授業 奥にミシンが見える



昭和 26 年頃の授業風景

・体育の授業 組体操の様子

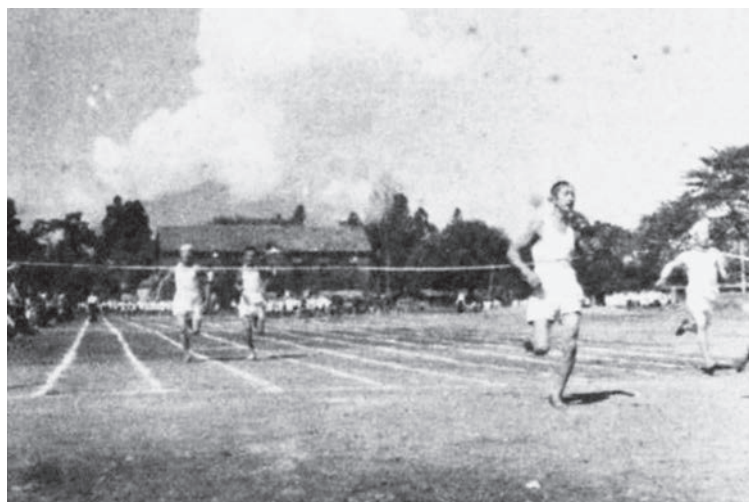


昭和 26 年頃の授業風景

・音楽の授業 後ろの黒板に清水中学校校歌が書かれている



昭和 26 年頃の運動会の様子

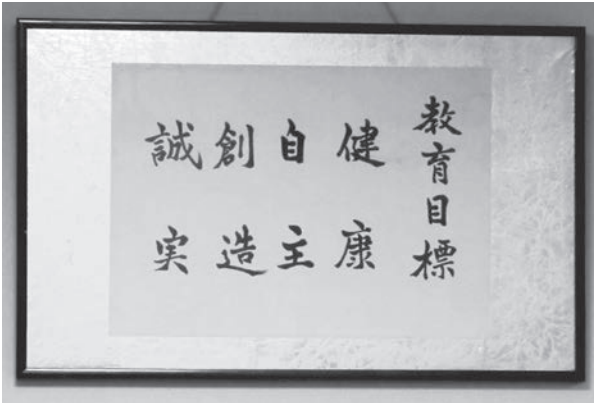


◇昭和三十八年（一九六三年）第四中と清水中が統合し、現在の第四中学校ができあがった。

- ・ 統合前の第四中 九二一名
- ・ 統合前の清水中 四一九名
- ・ 統合後の第四中 一五二〇名

◇昭和四十五年に教育目標を制定

以来、四十七年間受け継がれ、現在も本校の教育活動の指針となっている。



○昭和四十七年の四中祭

- ・ テーマは「創造」
- ・ 四中祭開催の街頭宣伝をしていた模様

昭和 47 年の四中祭



昭和 47 年の四中祭

- ・習字や絵画などの作品展示
- ・学芸発表で舞踊を披露



昭和 47 年の四中祭

- ・食堂の様子
- ・吹奏楽の発表



昭和 47 年の四中祭

- ・フォークダンス
三重の輪が三つ見える



昭和 47 年の四中祭

- ・仮装行列で街をパレード
お巡りさんも協力





現在は、駐車場の中央にその一部が残されている



PTAの方々が協力

◇昭和四十八年 岩石園造成工事開始
様々な種類の石を一カ所で観察できるようにしたもの。
県内のいろんなところから石を運んだ。



◇昭和五十年 岩石園完成



紅葉



写生大会

○「青雲の園」と命名され、大いに活用される



理科の学習でも活用



四中祭でのお茶席

◇昭和五十八年（一九八三年）五月二十六日、日本海中部地震が発生。全国で津波等で亡くなった方が一〇二名いた。

その日、四中の三年生が鯨ヶ沢港で写生遠足を行っており、港で船の絵を描いていたが、幸いなことに、三六〇人全員が高台に避難し、誰一人けがをすることなく学校に戻ってくる事ができた。



鯨ヶ沢町立西海小学校に避難したときの様子

○生徒数はどんどん増え、校舎は増築に増築を重ねていた。初めて校舎の中を歩くと、自分がどこにいるのか分からなくなつたという。平成三年、リング台風とも呼ばれる台風十九号により校舎も被害を受け、体育館、校舎新築の願いが強まっていた。



平成7年 屋内運動場増改築竣工
記念式典の様子



◇平成七年（一九九五年）に体育館が完成

四中祭



壮行式



合唱コンクール



球技大会



○新しい体育館で行われた行事の様子

○平成二十一年、旧校舎の解体



◇平成二十三年（二〇一一年）
新校舎落成



平成 25 年（2013 年）新校舎落成記念式典



◇平成二十五年（二〇一三年）新校舎落成記念式典

新校舎の中央の光庭（こうてい）

…校舎の真ん中に設けられた明るい空間



◇平成二十九年（二〇一七年）創立七十周年を迎え、これまでの歴史と伝統を積み重ねてきてくれた先輩や地域の方々に感謝しつつ、さらなる高みを目指す。



平成 22 年度卒業生



平成 23 年度卒業生



平成 24 年度卒業生



平成 25 年度卒業生



平成 26 年度卒業生



平成 27 年度卒業生



平成 28 年度卒業生



平成 29 年度卒業生

